

TOTTORI RYOKUSUI DAYORI

とっとり 緑推だより

NO.19

2006.12発行

社団法人 鳥取県緑化推進委員会

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220番地鳥取県農林水産部林政課内

TEL 0857-26-7416 FAX 0857-21-6215

E-mail:info@tottori-green.or.jp URL:<http://www.tottori-green.or.jp>

会員の現況平成18年11月末現在 正会員116名 贊助会員115名 特別会員1名

理事長就任のごあいさつ



鳥取県議会議長 山根英明

本委員会は「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づく法人化から10年を経過し、新たなステップに向けてのスタートを切ることとなりました。

環境の世紀といわれる21世紀にあって、森林や緑を取り巻く環境は大きく変わって参りました。

温暖化が地球環境上の大きな問題となる中にあって、森林の二酸化炭素の吸収源としての機能に対する期待は大きく、地球温暖化防止の京都議定書で定められた我が国の二酸化炭素削減目標6パーセントの内、3.9パーセントを森林で削減することが閣議決定されているところあります。

また、世界の木材需給については、輸出国の違法伐採による森林荒廃の進行や世界的な環境保全意識の高まり等により、不安定な要素も増えてきております。

一方、我が国の森林を守り育ててきた山村は、林業の長期にわたる低迷のため疲弊し、森林の手入れが滞り、荒廃した森林も目立つようになって参りました。

このため、近年、異常気象のために多発する集中豪雨等により、全国各地で洪水や森林災害が頻繁に発生するようになってきております。

このような中で、鳥取県では森林とりわけ人工林の再生を目指して、平成17年度に「鳥取県森林環境保全税」が導入され、県民の方々に森林の大切さへの理解を深めてもらうためのソフト事業や手入れの遅れた森林の整備が進められています。

本委員会と致しましては、緑豊かな郷土を次の世代に引き継ぐため、鳥取県森林環境保全税ソフト事業との連携を図りつつ、県民の皆様の善意による「緑の募金」を主な財源にして、緑化の推進や次代を担う青少年の環境教育の支援等に努めているところであります。

本委員会の運営は、市町村合併や逼迫する地方財政を反映して年々厳しさを増してきておりますが、県や市町村のご協力を得ながら緑化の推進や青少年の環境教育の大切さを県民の皆様に訴え、会員・緑の募金の拡大による組織基盤の確立や事業の充実に努めて参りたいと考えております。

引き続き、県民の皆様のご理解とあたたかいご協力を心よりお願い申し上げまして、就任のごあいさつと致します。

平成18年度春期「緑の募金」実績

平成18年緑の募金計画

募金運動期間 春期 3月25日(土) ~ 5月31日(水)
 秋期 9月1日(金) ~ 10月31日(火)
 募金目標額 2,800万円

平成18年春期の「緑の募金」は、今年が緑の募金による森林整備の推進等に関する法律制定11年目で、新たなステージの初年に当たることから、懸垂幕による事前広報やテレビ・ラジオによる募金の呼びかけ等を行った結果、前年同期の102.5%の実績となりました。ご協力誠にありがとうございました。

この浄財の内、街頭募金・学校募金・家庭募金は、募金額の50%を限度として各市町村支部を通じて希望される募金団体に交付金として交付し、学校や地域の緑化に活用してもらいます。

その他の募金については、事務局で取りまとめて、各種団体やみどりの少年団等が行う森林づくりや緑化イベントなどの事業の助成金として交付することにしています。

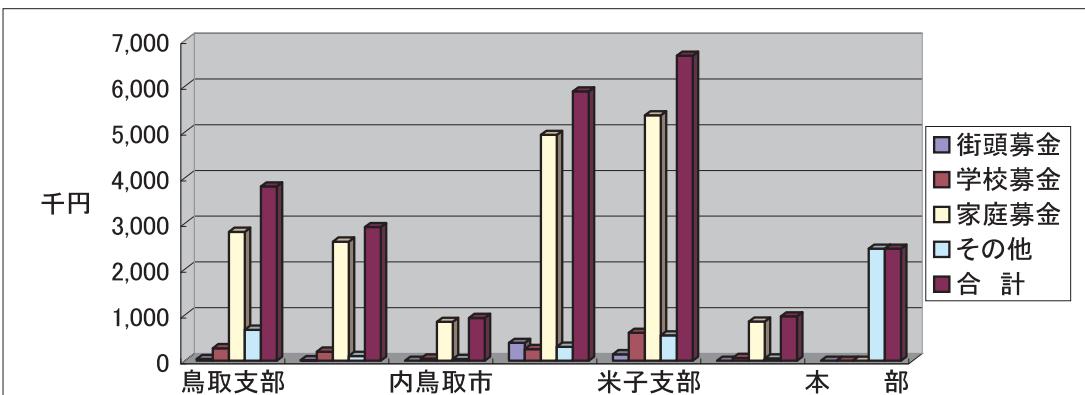
「緑の募金」の使途につきましては、外部委員からなる緑の募金運営協議会の意見を聞きながら、森林の整備や身近な緑化の推進などに適正かつ有効に活用してまいりますので、募金目標達成のため今後とも一層のご理解とご協力をお願い致します。

春期緑の募金実績

単位：千円、%

区分	平成18年度						平成17年度	
	街頭募金	学校募金	家庭募金	その他	合計	割合		
平成18年度	鳥取支部	38	274	2,818	677	3,807	16.8	3,809
	八頭支部	12	199	2,604	105	2,920	12.8	2,934
	内鳥取市	0	47	850	37	934	4.1	910
	倉吉支部	390	254	4,937	306	5,887	25.9	5,751
	米子支部	141	610	5,362	555	6,668	29.4	6,494
	日野支部	0	59	857	52	968	4.3	1,117
	本部	0	0	0	2,450	2,450	10.8	2,048
	合計	581	1,396	16,578	4,145	22,700	100.0	22,153
	割合	2.6	6.1	73.0	18.3	100.0		
平成17年度		574	1,657	16,013	3,909	22,153		

平成18年度春期募金の種類別・支部別実績



高額募金者のお名前（敬称略）

- 20万円以上 鳥取三洋電機株式会社、山本紀彦
- 15万円以上 三洋エプソンイメージングデバイス株式会社
- 10万円以上 新日本海新聞社、池内 実、岸本 豊、長石暢二、山根裕和

第16回森林のめぐみ感謝祭の開催

「とつとり森林月間」のフィナーレを飾る第16回森林のめぐみ感謝祭は、実行委員会（山根英明会長）の主催により、10月29（日）に八頭郡八頭町の「八東総合運動公園」を会場に開催されました。

記念式典では、本年度認定された森の名手・名人の認定証が、本委員会の山根英明理事長から赤川武邦、梶川正義の両氏に伝達されました。

当日は、県下各地から8,500人の来場者があり、森林や木に親しむ体験や展示、周辺の元気な集落・団体等の出展会場は大にぎわいでした。

本委員会は、実行委員会メンバーとして参画し、地元小学校みどりの少年団の協力により来場者に緑の募金を呼びかけるとともに、更紗ドウダン・ナツツバキの苗木1000本を午前・午後の2回に分けて、来場者に無償配布しました。



代表者の丸太カット

また、併催行事として森林ボランティアや連合鳥取東部地協等による枝打ち体験交流を実施するとともに、森の名手名人坂本幸穂さんの「木馬引き」の技を見学しました。



苗木配布



木馬引き



枝打ち作業説明

学校の森探検

緑の募金事業（森林づくり）

岩美町立岩美南小学校 寺 本 努

平成13年4校が統合して開校した本校は、広大な敷地の中に学校林、果樹園、畠まである学校です。管理が大変なのですが、子どもたちは恵まれた自然環境の中で豊かな体験をしています。子どもたちには「自然を愛し、田畠を耕し、心を耕す。自然を大切にしてすてきな心の人になろう。」と呼びかけています。子どもたちもよく展望台まで登るのですが、開校して6年、登山道も台風の被害でずいぶん痛み、樹名板もなくなつて樹の名前がわかりません。そこで、11月24日、鳥取県立博物館の清末幸久先生に来ていただき、5・6年生が、学校の森探検をしました。沢山の木の名前を教えていただき、樹名板をとりつけました。

緑化推進委員会の助成を受け、昨年度は、裏庭を「憩いの森」として緑化整備、今年度は、森林づくりの促進事業で、登山道の整備、植林、椎茸栽培体験を行いました。これからも環境教育とあわせ、緑化意識の高揚、森林での豊かな林業体験をさせたいと思います。



採石跡を自然に戻す = 植樹を終えて

緑の募金事業（森林づくり）

讃郷愛林協会 会長 田栗栄一

私たちの讃郷愛林協会は発足後10年になりますが、前会長の逝去後5年ほど休会状態でした。今年活動再開後最初の事業として取り組んだのが、三朝町田代地区の採石跡の緑化事業です。ここは業者が採石した後、放置されており、これを自然に戻そうとの取り組みです。

まだ弱小な組織のため、苗木代でも助成がないかと検討していたところ、緑の募金の助成金があるとの情報を得ることができました。その後、県緑化推進委員会からイベントとして実施する等のアドバイスがあり、早く三朝町教育委員会の後援を得て、三朝西・南小学校の土曜学校、並びに田代地区住民の方々に参加して頂き11月4日に無事終了しました。

樹種はケヤキ、ホウノキ、ナナカマド、ヤマザクラ100本ずつ、クルミ25本の計425本です。はじめCO₂の問題とか地球全体の問題を大上段に考えていたのですが、現地は田代地区のすぐ上であり、植えた木が成長すれば防災面で一番貢献できるのではと期待しております。

今回はなるべく手作りの事業を考え、子どもたちに来てもらうための階段は間伐材の利用、支柱は会員が竹



ホウノキを植える女の子たち



どうです、見事に植わったでしょう

を切ってくるなど工夫した事がささやかな誇りです。今後毎年着実な活動が出来るよう相談しています。

讃郷愛林協会

Tel・Fax 0858・26・0118

〒682-0021 鳥取県倉吉市上井298-11

ちょうこうじ 観光史跡長綱寺周辺への記念植樹

緑の募金事業（地域緑化の推進）

坪田2区B.S管理組合

当組合は、平成15年に県道の内迂回工事に伴い、大山町観光史跡である的石（太平記で有名な名和長年公が弓矢稽古のためにした石）が移転されることになったため、的石の管理などを目的に、部落内のボランティア、シルバー会員の有志が集まってきました。



名和公一族郎党の墓周辺への桜植

平成15年度には、緑の募金事業での的石周辺へ枝下桜、枝下梅、紅葉等を植栽し、管理を行っています。春ともなれば梅、桜と花が咲き誇り地元の皆さんに大変喜んでいただいております。

今年度は、当地区の名刹長綱寺（名和公一族の菩提寺）裏山の治山工事等により、周辺の環境が立派になるにつけ、寺・老人会等関係者と相談の結果、墓地周辺や寺の裏山に開通する自動車道の法面に桜（皇太子御成婚記念樹 雅）を植えることにしました。

名和公一族所縁の観光史跡への集客を図ると併に、地元住民の史跡、緑化への関心を高めるための記念事業として、組合員、寺関係者、老人会の協力により、「雅」を植栽することができました。

今後、花の時期に満開になる日を皆で楽しみにしています。



観光史跡 的石



森林・林業体験学習を通じた交流活動

緑の募金事業（みどりの少年団活動推進）

日南町立石見西小学校みどりの少年団

石見西小学校みどりの少年団では、地域のボランティア団体の三葉クラブの協力を得て、米子市立福生小学校と交流しています。

本年度は交流活動の一環として、森林環境について考えることをテーマ

にして、日南町環境林において両小学校の児童・保護者等総勢51名が森林作業の実体験を行いました。

ヒノキの枝打ち、間伐作業などなれない手つきで行い、森林の果たす機能を再認識し、森林の大切さを知る一日となりました。

また、その間伐材を利用して、ベン立てやコースターなど夏休みの作品もつくりました。

今後も、このような体験を通して、森林と水の大切さを学んでいきたいと考えています。



「みどり活動」による地域の学校づくり

緑と水の森林基金事業（学校環境緑化モデル事業）

米子市立成実小学校 P T A会長 長田正徳

本校の特徴的な教育活動として、地の利を生かした「みどり活動」があります。これは、昭和51年に加入した、みどりの少年団を軸として、自然保護・緑化推進啓発・栽培・美化活動を全校的に幅広く取り組むものです。このみどり活動を通して、地域の方々が、より気軽に来校でき、児童と触れ合い見守り育んでいただける環境作り「地域の学校」作りの更なる推進を目的とした、「教育環境整備事業～緑化整備三ヵ年計画(平成17年～平成19年)」を平成16年に策定し、地域の方にも関わっていただき整備することとしました。第2年次には、(社)国土緑化推進機構「緑と水の森林基金(全国のローソン店頭募金‘みどりの募金’原資)」補助事業に応募し、補助を受ける事ができました。平成18年度当初より整備のための「プロジェクト」を組織し、今回も家庭や地域のボランティア、そして県緑化推進委員会及び県林業振興課の協力支援、さらに地域に根付く企業のボランティアをいただき、檜の間伐材を使用した「うさぎのへや」、癒しのオアシスの回廊そして全145本の植樹による「癒しのオアシス」また、達磨池も造成し、校舎横を一体的に整備する事ができました。人間関係の希薄さが懸念される昨今ですが、本校は今後もみどり活動を中心に、今以上に家庭・地域の教育力を高め、子ども達の健全育成を推進していきたいと思います。



間伐材の皮むき



植樹

間伐材を使った住民手づくりのログハウス建設プロジェクトに関わったこの1年

緑と水の森林基金事業（青少年・民間活動グループ育成）

むら
夢来づくり中原集落振興協議会会長 葉 狩 健一

中原集落は、智頭町の南端、国道373号線「志戸坂峠道路」や智頭急行線の沿線にあって、古くからの上方往来の要衝として栄え、今でも「宿屋」や「茶屋」の屋号も残る戸数70軒ほどの山村です。智頭杉の主産地の一つであり、往時は製材所もいくつかあり、木馬で材木を運び出す光景も懐かしく思い出されます。しかし、林業の低迷は如何ともしがたく、山林経営からの撤退、人口流出など、遠くない将来集落の存続さえ危惧しなければならない、そうした危機感を抱いていました。

一方で、各地で地域活性化に取り組む動きも活発化し、智頭町でも平成9年から「智頭町ゼロ分のイチ村おこし運動」が創設され、我が集落も平成10年から参加、今年で9年が経過します。「住民自治」「交流情報」「地域経営」を活動の柱に、花づくりを中心とした環境美化、環境大学や若葉台小学校との森林学習等を通じた交流、そばづくりやカズラ細工など地域経営のための資源開発、キャンプ場整備などに取り組んできました。

10年間の村おこし運動を助走期間とし、その後の自立的・持続的な山林や山村経営という大きな課題に対し、平成18年からの2年間は、自分たちなりの解答を見つける期間と位置付けています。キャンプ場にログハウスを作ろうという構想もその一つです。ここを活動の基地として、様々な森林活動プログラムを開発、提供する仕組みやマンパワーも資金も必要とするこうした活動に幅広い参加と支援を得られる仕組みづくりを進めたいと考えており、関係機関のご指導を得、先進事例にも学びたいと思っています。

ともあれ、1年以上に及ぶプロジェクトに取り組む中で、新たな協力の輪が広がったり、これだけのことがやれるという自信や行動力が少しあは身に付いたように思います。これまでの作業人員は延べ320人以上、一部2階建て40m²で、使用した間伐材が約150本、何より楽しくなければ、何事も長続きしない、そんな思いを強めた1年でした。



餅つき



間伐材の皮むき



上棟式

事務局だより

平成18年度の「森の名手・名人100人」認定

森林の文化や技術の伝承を目指す“もりのくににっぽん運動”の一環として認定される「森の名手・名人100人」に、平成18年度は、鳥取県からは、5名の方が選ばれ、鳥取県の「森の名手・名人」は合わせて14名になりました。

今年の認定証の伝達は、10月29日に八頭郡八頭町の「八東総合運動公園」で開催された第16回森林のめぐみ感謝祭の式典の中で行われ、当日出席された赤川武邦さん、梶川雅義さんに、山根英明理事長から認定証と本委員会からの記念品が贈られました。

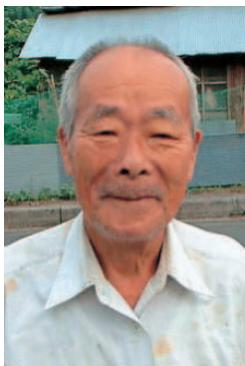


認定証の伝達

平成18年度に認定された森の名手・名人の皆さん



赤川武邦さん
(造林手)



梶川雅義さん
(原木椎茸栽培)



山下富好さん
(炭焼き)



荻原克明さん
(木工クラフト)



中村庸一さん
(粉職人)

赤川武邦（大山町羽田井）さんは、森林作業に52年間従事され、現在は、大山森林組合の作業班長として活躍されています。特に、大径木の伐採や吊り伐りなど高度な技術に優れ、後継者の育成指導にも尽力されています。

梶川雅義（鳥取市河原町三谷）さんは、原木椎茸栽培一筋に70年間従事され、現在も県内有数の生産者として活躍されています。永年地元椎茸生産者団体の会長を務めるとともに、地元小学校での椎茸栽培指導や学校給食への椎茸利用の推進に尽力されています。

山下富好（鳥取市国府町荒舟）さんは、過去に培った技術を生かして、地元有志と平成4年に炭生産組合を設立し、平成9年に旧国府町で開催された全国木炭サミットを成功に導くとともに、炭焼き技術の体験等を通して木炭文化の伝承にも努めておられます。

荻原克明（鳥取市行徳）さんは、独学で身につけた竹製品や木工クラフトの技術を生かして、身近にある材料を活用して子どもが喜ぶような作品を制作されています。各種の木工教室の講師としても活躍され、木の文化の伝承にも尽力されています。

中村庸一（日野町三谷）さんは、県内唯一の粉（コア）職人として、神社・仏閣や旧家など近隣県からの注文も一手に引き受けておられます。主にヒノキの間伐材を材料にして、手の感触で厚さ1.97mmの均一なコアを生産する優れた技術を持っておられます。

中国・四国地区緑化功労者に土居衛さん

11月21日に愛媛県松山市で開催された平成18年度中国・四国地区緑化推進協議会総会において、中国・四国地区緑化功労者 7名の表彰が行われ、鳥取県からは鳥取市高路の土居衛さんが受賞されました。

土居衛さんは、永年にわたり、地元東郷林業振興協議会や鳥取市林業振興協議会のリーダーとして森林所有者等への林業知識や技術の普及に尽力し

て、地域の林業技術の向上に貢献されています。

また、地元みどりの少年団や鳥取市女性の森グループ等の森林・林業に関わる技術指導も行っておられます。

平成10年からは、全県を活動エリアとする森林ボランティア団体の「森っ子俱楽部」に進んで入会し、以来、その中核メンバーとしてほぼ全ての作業に参加し、培った技術を生かして高所での枝打ちやチェンソーによる間伐などの技術リーダー的存在として活躍されています。



会員募集のお願い

社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様の善意によりご寄附いただいた「緑の募金」などを主な財源として、森林の整備や身近な緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化の推進に寄与することを目的として、平成8年に設立された公益法人です。

本委員会の組織運営は、正会員（県・市町村・団体・個人）及び賛助会員（企業）の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・ご協力の上に成り立っております。

設立趣旨にご賛同いただける皆様のご入会を心よりお願い申し上げます。お問い合わせは、本委員会までお願いします。

会員の年会費 個人・団体・企業 一口1万円以上

お問い合わせ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220（鳥取県庁林政課内）

電話：0857-26-7416

FAX：0857-21-6215

E-mail：info@tottori-green.or.jp